

ティアニー先生のベスト・パール

ローレンス・ティアニー 著

松村正巳 訳

＜書評者＞ 徳田安春（筑波大学大学院教授/筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・水戸協同病院総合診療科）

研修医や医学生の間で圧倒的な人気を誇るティアニー氏は、医学教育における「エリック・クラブトン」のような存在といってよい。病院や出版社が主催するケース・カンファレンスでは、申し込みが殺到し、人気アーティストのコンサート並の waiting list を形成している。

カンファに登場するティアニー氏は、70年代の米国総合内科全盛時代における卒後教育を担当した「オールド・スクール (old school)」系の代表的指導医。NIHから「全米ベスト指導医」として賞賛。サンフランシスコ・エリアでの教え子には、Robert Wachter, Scott Flanders, Sanjay Saint, Gurpreet Dhaliwal など、現在の米国を代表する総合内科医が並ぶ。これらの内弟子は、ティアニー氏が深

くかかわった Clinical Problem-Solving (NEJM) のシリーズを引き継いで診断困難症例への推論をわかりやすく解説している。中国などでもケース・カンファを展開しており、The World Encyclopedia of Medicine との異名も持つ。

さて、本書であるが、ベスト・パールを収載したとのこと。これまで何度か聞いたパールも出ているが、初耳のものも多い。ティアニー氏のパールは、長年の指導医としての経験から得られたものであり、大変貴重な叢智である。個々のパールにおいて、引用文献は当然不要であり、ティアニー氏が述べているということがエビデンスとなることが周知の事実となっている。ティアニー氏のパールで育った弟子たちが世界有数の指導医となっていることが、氏のパー

ルの効果を示すエビデンスである。ただし、ティアニー氏の人気の秘密はパールにとどまらない。バード・ウォッチング、鉄道、相撲、ロック、ジャズなどの幅広い趣味を持つ。ラーメンやビールが好きな庶民的食嗜好（しこう）。そんなキャラクターがファンを増やしているのは間違いない。

「オールド・スクール (old school)」系の指導医が少なくなり、内科系の救急、外来、入院、集中治療の分業が激しくなった現在の米国医療シーンでは、オールラウンドな総合内科指導医は貴重な存在である。本書を繰り返し読み、ティアニー氏をロールモデルとして、日本の若い医師や医学生の中から優れた総合内科医をめざす人々が続出し「うねり」となれば、将来の総合内科医の質において日米逆転の可能性もあるとみるのは評者だけではないだろう。

●A5 頁146 2011年
定価 2,625 円
(本体 2,500 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-01465-6]
医学書院 刊